

Sukses Jakarta untuk Indonesia



STRENGTHENING DISASTER RESILIENCE IN A GLOBAL CITY

CLIMATE CHANGE MITIGATION AND ADAPTATION:
IMPACT OF FLOODS AND EXTREME WEATHER

**Crisis
Management
Conference**
29-30 May 2024

目次

02

はじめに

- 危機管理会議について
- CMC 2024 | グローバル都市における防災力の強靱化

04

第1日
会議

- 開会挨拶 | ジャカルタ特別市知事代行
Heru Budi Hartono
- 基調講演 | 前インドネシア内務省事務
局長 Suhajar Diantoro
- プレナリーセッション
- サブテーマ1
- サブテーマ2
- サブテーマ3
- クロージングセッション

32

第2日
視察

- フーシュ高速鉄道 | ハリム駅-パダラン
駅
- メイソンパインホテル | 西ジャワ州パ
ダラン
- クイックシルバー | バタビア・マリー
ナ、スンダ・クラパ港
- 水難救助シミュレーション | ジャカル
タ、サウザンド・アイランド、ビダダ
リ島
- マングローブの植林 | ジャカルタ、ケ
プラウアン・セリブ、ビダダリ島

危機管理会議について



危機管理会議（CMC）は、毎年14の都市で開催される国際会議です。東京都庁（TMG）が発案し、危機管理ネットワーク（NCM）が運営しています。NCM加盟都市は、バンコク、デリー、ハノイ、ジャカルタ、クアラルンプール、ロンドン、マニラ、新北、ソウル、シンガポール、台北、東京、ウランバートル、ヤンゴンです。

会議には、世界各地の加盟都市の防災担当者が一堂に会し、危機管理・災害への備えに関する経験や専門知識を共有しました。この会議の主な目的は、加盟都市と地域全体の危機管理能力の向上と人材育成です。



危機管理会議 2024

グローバル都市における防災力の強靱化



都市化が進むにつれて、世界は自然災害や人為的災害によるリスクの増大に直面しており、世界の都市は強靱化戦略の必要に迫られています。ジャカルタで開催された危機管理会議2024は、「**グローバル都市における防災力の強靱化**」という壮大なテーマのもと開催されました。この会議では、危機管理ネットワーク加盟都市と世界の都市の代表者が一堂に会し、災害への備えと対策を向上させるための洞察、ベストプラクティス、革新的なアプローチを共有しました。

世界各地の優れた防災強靱性を備えた都市の事例を紹介しながら、都市環境における災害対策の課題を取り上げ、包括的かつ協力的な戦略の緊急性に焦点を当てました。

会議はプレナリーセッションとメインセッションに分けられました。プレナリーセッションでは、強靱性構築におけるテクノロジー、コミュニティ参画、効果的なガバナンスの統合の重要性が強調されました。メインセッションでは、以下の3つのサブテーマで議論を深めました：

- 気候変動の緩和と適応：洪水と異常気象の影響
- 持続可能な都市空間計画と開発による災害への備え、そして
- 危機管理における危機管理コミュニケーション戦略と連携

この会議では、貴重な教訓が共有され、各都市独自の状況に合わせた実行可能な解決策のヒントにつながりました。

Sukses Jakarta untuk Indonesia



STRENGTHENING DISASTER RESILIENCE IN A GLOBAL CITY

CLIMATE CHANGE MITIGATION AND ADAPTATION:
IMPACT OF FLOODS AND EXTREME WEATHER

第1日 会議

2024年5月29日（水）

開会挨拶

ジャカルタ特別市知事代行 Heru Budi Hartono



今日、世界が直面している気候変動の課題は、ますます多様化・複雑化しています。ジャカルタはその課題を強く認識し、強靱な都市としての能力を備えてきました。世界の他の多くの人口都市と同様、ジャカルタも洪水や地盤沈下といった深刻な課題に取り組んでいます。急速に増加する都市人口と結びついて、これらのリスクは増幅するため、持続可能な管理方法と着実な行動が必要となっています。

2017年から2022年までの開発計画では、ジャカルタは災害対応に重点を置いたインフラ統合により「ジャカルタ・スマート・セーフ・シティ」を実現するという政策方針を採択しています。さらに、ジャカルタの地域中期開発計画（RPJMD）2023-2026は、強靱で持続可能な都市再生の創造に重点を置きます。ジャカルタの現在の開発計画を支える形で、ジャカルタは独自の低炭素開発計画と危機管理計画も策定しています。その後、インターネットオブシングス（IoT）や人工知能（AI）を活用したマルチハザード早期警報システム（MHEWS）や洪水制御システムの開発など、災害軽減におけるイノベーションを継続して推進しております。

「各都市がベスト・プラクティスを共有することで、知識の普及と模倣という波及効果が生まれ、グローバル化が進む世界における都市の強靱性強化に向けての前進が期待されています。」

ジャカルタ以外にも、危機管理ネットワーク加盟都市は同様の課題に直面しており、国を超えた協力と共通の学習が不可欠であることを物語っています。この会議では、気候変動の緩和と適応、持続可能な空間計画による備え、危機管理におけるコミュニケーション戦略と連携など、主な課題についての議論することを目的としています。

危機管理会議2024は、都市が新たなつながりを築き、意見を交換し、都市の強靱性に向けた集団的な道筋を描くための期間であり、また、プラットフォームになることが期待されました。

基調講演

前インドネシア内務省事務局長

Suhajar Diantoro 博士



欧州連合（EU）の地球観測計画であるコペルニクスは、昨年、世界の平均気温が摂氏14.98度まで上昇したことを記録しました。産業革命前の1850年から1900年に比べて1.48度上昇し、これまでで最も暖かい年となりました。

「気候変動はもはや遠くの脅威ではなく、厳しい現実である。私たちは、昨年の気候危機が身近なところで起きていることを目の当たりにしました。世界中で気温が上昇し、気候はますます不安定になっています。」

今日、世界は、環境に優しい経済活動やインフラへの投資にシフトしなければならない重要な岐路に立っています。環境への影響を最小限に抑えた産業や交通システムを優先し、コミュニティ・レベルの経済的エンパワーメントを促進することが、実行可能な前進への道です。

この理想を実現する上で、都市は変化の最前線に立っています。現在、人口の約50%が都市に居住しており、この数は今後さらに増加すると予想されています。このため、都市はこの転換期を乗り切る中心的なアクターとなり、積極的な管理が不可欠となります。

適切に管理されれば、都市部は経済と環境に特筆すべき利益をもたらすでしょう。さまざまな都市で、都市化は著しい経済成長と結びついてきました。さらに、複数の研究が、再生可能エネルギー源の導入拡大と経済成長の向上、所得格差の縮小との間に正の相関関係があることを強調しており、都市の持続可能な開発が社会的結束と環境回復力を強化する可能性を明らかにしています。

しかし、適切な計画とガバナンスがなければ、都市は、災害リスクの増大、過密化、資源の枯渇、社会的不平等の拡大など、すでに厳しい状況を悪化させる可能性があります。世界の運命は都市の手のひらの上にあるといえます。変化を受け入れ、責任ある都市政策を実施することで、私たちは都市部の潜在能力を社会の集団的利益のために活用することができるのです。

文化公演

ジャカルタ伝統舞踊とレバナ・ベタウィ・ハドロー



オープニングセレモニーでは、参加者を歓迎するために、自然に関するテーマを題材にした伝統舞踊が披露されました。その後、古賀崇司氏（東京消防庁防災部長）、Tavida Kamolvej博士（バンコク都副知事）、Heru Budi Hartono氏（ジャカルタ特別市知事代行）、Suhajar Diantoro博士（前インドネシア内務省事務局長）、Bey Machmudin氏（西ジャワ州知事代行）、Raditya Jati博士（インドネシア国家防災庁（BNPB）代表）ら（写真左から右へ）が、全員でインドネシアの伝統楽器であるレバナ・ベタウィ・ハドローを打ち鳴らし、イベントの開始を正式に祝いました。



Sukses Jakarta untuk Indonesia



STRENGTHENING DISASTER RESILIENCE IN A GLOBAL CITY

CLIMATE CHANGE MITIGATION AND ADAPTATION:
IMPACT OF FLOODS AND EXTREME WEATHER

プレナリーセッション グローバル都市における防災力の強靱化

プレナリーセッション グローバル都市における防災力の強靱化



急速な都市化に伴い、ジャカルタのような世界の都市は、自然災害や人為的災害によるより高いリスクに直面しており、強固な強靱化戦略を必要としています。このセッションでは、危機管理ネットワークと世界の都市の代表者が一堂に会し、災害への備えと対応を改善するための知識、ベストプラクティス、革新的なアプローチを共有しました。プレナリー各講演者は、都市災害の複雑な課題を取り上げ、包括的かつ協力的な戦略の必要性を強調しました。また、各都市独自の状況に合わせた貴重な教訓と実行可能な解決策を提供する強靱な都市のケーススタディを通じて、テクノロジー統合、コミュニティの関与、そして、効果的なガバナンスが強靱化構築における鍵であることを明らかにしました。

CNNインドネシアのシニア・ニュースキャスター、Desi Anwar氏の司会で行われたプレナリー討論では、インフラの強靱性、早期警報システム、社会的結束、持続可能な開発など、災害強靱性のさまざまな側面が探求されました。プレナリー討論の後、会議は3つの主要テーマ別セッションへと続きました。参加者は、世界各地の専門知識を結集し、学際的なアプローチを検討しました。対話型のセッションでは、ダイナミックな意見交換が行われ、ネットワークづくりの機会や集团的アクションのためのパートナーシップが促進されました。



ジャカルタ： 住みやすいグローバル都市

C40 東・東南アジア諸国・地域ディレクター

Milag San Jose-Ballesteros



Milag San Jose-Ballesteros氏は、世界の都市における実践的な事例を用いながら、都市の強靱化について説得力のあるプレゼンテーションを披露しました。氏のプレゼンテーションは、「地球温暖化」が単なる論説ではないことを浮き彫りにしました。過去10年間で1兆7,000億人が影響を受け、気候危機はますます深刻化しています。気候変動は、都市のヒートアイランド（UHI）、大洪水、暴風雨など、より極端な気象現象を引き起こしています。

「調査によると、2050年までに降雨量と極端な降雨量が3倍から4倍に増加する可能性が高いのです。ジャカルタや他の都市、あるいは地方が現在すでに洪水に見舞われているとすれば、将来、降雨量が3倍から4倍に増えたらどうなるかは想像がつくでしょう。」

世界の都市は、災害に対する強靱性と備えを向上させる努力をしてきました。アーメダバードは、色分けされた早期警報システムを構築し、緊急対応段階に向けて市民に警告を発しています。リオデジャネイロは、SMSとサイレン音で市民に知らせる洪水警報システムを構築しました。ワシントンD.C.については、住民に冷却シェルターを提供する冷却センターマップがあります。San Jose-Ballesteros氏は、革新的な都市計画とグリーン・イニシアチブを通じて強靱性を構築することの重要性を強調しました。バンコクにはチュラロンコーン100周年記念公園があり、小さな公園や公共交通機関の改善を通じて、氾濫原や熱波の課題に対処しています。ダーバンにおける熱脆弱性マッピングや、ニューヨーク市における涼しい屋根の取組も、効果的な戦略として取り上げられました。これらの取組は、2030年までに、緑地や浸透性のある空間に、公平に誰もがアクセスできることを目指す「ウォーター・セーフ・シティーズ・アクセラレーター（Water Safe Cities Accelerator）」や「アーバン・ネイチャー・アクセラレーター（Urban Nature Accelerator）」といった世界的な公約に沿ったものです。

最後に、San Jose-Ballesteros氏は、各都市の成功が国や世界の持続可能性に不可欠であることを強調しました。氏は、危機管理を改善し、長期的な強靱性を確保するために、より戦略的で予防的な対策をとるよう呼びかけました。効果的な長期開発計画と強靱性の構築は、持続可能な都市とすべての人のための持続可能な未来を実現するために不可欠な道筋なのです。

気候危機の時代における防災強靱性

ジャカルタ特別市地域防災委員会委員長Isnawa Adjie



ジャカルタ特別市地域防災委員会委員長のIsnawa Adjie氏は、「グローバルで住みやすい都市」としてのジャカルタについて、洞察に満ちたプレゼンテーションを披露しました。彼は、「グローバル・シティ・レポート2023」におけるジャカルタの74位という順位が示すように、強靱で住みやすい世界経済の中心地となることを目指すジャカルタの変貌の道筋を概説しました。歴史的に、ジャカルタはインドネシアのGDPに大きく貢献し、東南アジアの主要な経済中心地であった。首都は移転するものの、ジャカルタは強力に統合されたインフラに支えられた重要な中心地であることに変わりはありません。

ジャカルタは、地域長期開発計画（RPJPD）2025-2045および地域防災計画2023-2027を通じて、主要な課題と対処戦略を策定しています。優先課題には、公共交通を中心とした歩行者に優しい都市の開発、デジタルインフラの改善、住みやすい住宅の提供、環境の質の向上などが含まれます。

気候変動に強いインフラの必要性は極めて重要であり、今後10年間の世界的リスクの10項目のうち5項目が環境リスクであるというデータもあり、それを軽減するための対策が必要とされます。ジャカルタの政策は、包括的かつ統合的な洪水対策、都市緑地、持続可能なエネルギー・交通インフラに重点を置いています。最後にIsnawa Adjie氏は、災害軽減と気候変動への取組を継続することを約束し、気候変動問題に立ち向かうための総合力を強調しました。

強靱な都市に向けた戦略的連携

バンコク都副知事 Dr. Tavid Kamolvej 准教授



「災害リスクの軽減（DRR）と対応戦略を、より広範囲な都市計画の取組と統合する必要があります。バンコクが来年のCMCの開催地に決まった中で、私たちは、包括的な戦略や政策の策定から始めて、災害に強く健康的な都市をつくることを強く求めます。洪水、熱中症、事故、災害による建物の倒壊などの都市が抱える複雑な課題は、総合的に管理することで、より効果的な危機管理とより良い回復につながります。」

バンコクには、（１）都市のモビリティ（２）包摂的な社会（３）透明性と説明責任（４）環境の持続可能性（５）健康と医療（６）すべての人のための教育（７）創造的で包括的な経済（８）安全で活気あるコミュニティ（９）組織の機敏性など、強靱な都市に向けた戦略的連携がいくつかあります。

Tavida Kamolvej博士は、より広範な持続可能性の目標に沿った、強靱で住みやすい世界都市を構築するための集団的な取組を呼びかけました。彼女の構想には、世界のグローバル都市の強靱性を高めるための戦略やベストプラクティスを共有するため、アジア太平洋地域全体で協力的なネットワークを育成することが含まれています。



持続可能なレジリエンスの未来に向けた災害危機管理における5つの重要戦略

インドネシア国家災害対策庁（BNPB）代表

Raditya Jati 博士



Raditya Jati博士は、既存の政策を実際に実行することの重要性を強調することによって、災害危機リスク管理の包括的な枠組みを提示しました。政策は単なる文書の計画ではなく、実行可能なものでなければならないと主張しています。災害危機管理はまた、インドネシアのInaRISKのように、災害を効果的に管理するために、多くの関係者がアクセスできる統合データシステムの活用を伴う必要があります。InaRISKにはすでに、ハザード、インフラ、重要施設に関する情報が含まれており、戦略的な意思決定や計画が可能です。その他のプラットフォームも、Geoportal、Disaster Data、Indonesian Disaster Data Telegram Channelなど、あらゆるグループへの情報発信を強化するために活用できます。

「今年だけでも833件の災害が我が国で発生したため、危機管理はしっかりと行われなければなりません.....すべての都市は、情報が危機管理にどのように利用できるかを理解するべきです。」

博士のプレゼンテーションでは、リスクから強靱性への転換にも焦点が当てられました。これは、ジョコウィ大統領がASEANレベルで、気候変動と災害への強靱性を高めるための協力体制を強めるの枠組みとして、持続可能な強靱性を推進するよう指示・宣言したことに合致します。Raditya Jati博士は、3つの重要なメッセージ、すなわち、（1）災害や危機に対応するための十分な権限と能力を持つ機関（2）いつでも使用でき、緊急時に容易にアクセスできる待機資金の利用可能性（3）強力なリーダーシップと模範的なコミットメント、を挙げて締めくくりました。

グローバル都市における防災力の強靱化：西ジャワ州の教訓

西ジャワ州防災委員会事務局長代行

Anne Hermadianne Adnan



西ジャワ州知事代理のBey Machmudin氏に代わり、西ジャワ州防災委員会事務局長代行のAnne Hermadianne Adnan氏が、2つの地殻プレート上に位置し、人口約5,000万人が居住する西ジャワ州から学ぶ、災害への強靱性強化の重要性について掘り下げたプレゼンテーションを披露しました。西ジャワ州はインドネシアの経済成長に大きく貢献しているものの、急速な都市化により、土砂崩れなどの地質災害に対する脆弱性など、大きな開発課題に直面しています。

西ジャワ州では、さまざまな面で強靱性を文化として推進しています。この文化には、強靱な市民、知識、インフラ、制度、政策、エコロジー、資金調達などが含まれます。この強靱性は、パトゥカラス-マダサリ海岸道路の建設、学校住民の災害への備えの強化、耐震住宅の建設など、さまざまな取組にも見ることができます。

西ジャワ州に習って、災害リスクを軽減するための積極的な計画と強固な建設手法を重点的に実施する必要があります。環境と地質学的リスクが増大する中、州の将来を守るために、地域の計画と開発のあらゆる面で強靱性を強化することは、重要な教訓です。

記者会見



記者会見で、Her Budi Hartono, ジャカルタ特別市知事代行は、気候変動によってジャカルタで災害が頻発していることを訴えました。また、ジャカルタは低地であり、環太平洋火山帯に位置しているため、洪水や地震のリスクが高く、その影響を受けやすいことを強調しました。「**グローバル都市における防災力の強靱化**」をテーマとするこの会議は、危機管理に関するベストプラクティスを共有し、国際的な連携を促進することを目的としています。Her Buti Hartono氏は、防災力の強靱化を都市計画に組み込み、低炭素開発戦略を採用することを力説しました。

また、ジャカルタが強靱なグローバル都市へと変貌を遂げる中で、グローバルな危機管理について議論する機会であるとして、東京都がジャカルタを会議開催地にしたことに感謝の意を表しました。この会議は、世界中の都市が知識を交換し、強靱な都市環境の構築に向けて協力することを奨励するものです。Heru Budi Hartono氏は、ジャカルタの危機管理に関する計画や経験が他の都市に刺激を与え、ジャカルタは他都市の実践から学ぶことができると指摘しました。また、気候変動という緊急の現実と、持続可能でグリーンな経済への移行の必要性についての議論も行われました。

Sukses Jakarta untuk Indonesia



STRENGTHENING DISASTER RESILIENCE IN A GLOBAL CITY

CLIMATE CHANGE MITIGATION AND ADAPTATION:
IMPACT OF FLOODS AND EXTREME WEATHER

サブテーマ1

気候変動の緩和と適応: 洪水と異常気象の影響

メインセッション

サブテーマ1 | 気候変動の緩和と適応: 洪水と異常気象の影響

地球の気温が上昇し、気象パターンがますます不規則になるにつれ、洪水や異常気象の頻度と強度は驚くほどの速さで高まっています。これらの異常気象は、熱波、干ばつ、山火事、竜巻、ハリケーン、台風、ブリザードなどを含み、世界中の地域社会に甚大な被害をもたらしています。その影響は、物的損害やインフラの寸断から、人命の損失や大規模な移住まで、多岐にわたります。

司会は、C40 東・東南アジア、オセアニア諸国地域ディレクター／グローバル・サウス・ダイバーシティ・リード・リージョンズ・アンド・メヨラル・エンゲージメントのMilag San-Jose Ballesteros氏、共同司会はジャカルタ特別市次官（経済・財政担当）Sri Haryati氏が務め、このセッションでは、気候変動と闘い、洪水や様々な異常気象に備える方法について議論しました。各都市の代表者は、特に脆弱なコミュニティにおける災害の影響を軽減するための戦略を共有しました。技術、効果的な政策、関係者の協力に基づく解決策の具体例が示されました。このセッションでは、特に気候変動による移住に直面している最前線のコミュニティの声を取り入れることも重視されました。その目標は、参加者が強靱性を構築し、協力と共同行動を通じて気候変動の複雑な状況を乗り切るための包括的な理解を習得することでした。



東京の洪水対策

東京都建設局河川部中小河川計画担当課長
土方 隆



土方隆氏は、東京都の洪水対策について話しました。土方氏は最初に、東京の年間降水量の多さと、台風や豪雨に対する脆弱性が洪水のリスクを高めていることを強調しました。氏は、こうした課題に対処するためのさまざまな洪水対策について説明しました。その中には、川幅を拡幅する、川底をより深く掘り込むことによる河川の整備などが含まれます。また、神田川・環状七号線地下調節池や江戸川橋分水路など、調節池や分水路の整備についても詳しく説明しました。

「東京都では、浸水予想区域図の作成・公開、河川監視カメラやライブ映像の拡充にも力を入れています。気候変動対策が急務であることを認識し、気温上昇による降雨量の増加が予想されるため、海までつなぐ地下河川の整備など、洪水リスク対策を強化する必要があります。この地下河川は、長い時間降り続く豪雨のときでも洪水を取水し続けます。」

気候変動適応策のためのスマートテクノロジーの活用

台北消防局シニアスペシャリストHuang Chien-Hua

Huang Chien-Hua氏は、台北市における気候変動への適応のためのスマートテクノロジーの活用について発表します。氏は、気候変動による異常降雨に対する台北市の脆弱性を概説し、台北市の4つの主要な適応戦略について述べます：災害リスク管理、災害への備えの強化、災害後の復旧、緊急事態管理の改善です。

台北市の戦略は、ハード面とソフト面の改善を組み合わせたものです。ハード面の対策としては、洪水調節プロジェクト、ポンプシステムの更新、排水の改善などがあります。ソフトウェアの取組では、スマート洪水管理、リアルタイムの気象データ統合、公共警報システムに重点を置いています。



「課題は、台北の低地や降雨強度の増加などです。これらのリスクを軽減するため、私たちは空間データと社会的脆弱性指標を採用し、的を絞った災害リスク分析を行っています。」

気候変動の緩和と適応: 洪水と異常気象の影響

マレーシア市民防衛局課長 Mohd Izaimi Md Daud

Mohd Izaimi Md Daud氏は、洪水や異常気象の影響を中心に、気候変動の緩和と適応について発表しました。また、マレーシアの危機管理戦略について概説し、予防、備え、対応、復旧について述べました。主要なポイントは、効果的な危機管理のための訓練と再訓練の重要性などです。マレーシアは世界平和度指数で3年連続19位にランクされており、社会の安全・安心性が高いことがうかがわれます。Mohd Izaimi Md Daud氏は、災害リスク軽減（DRR）への投資の必要性を強調し、公共部門と民間部門の強靱化への貢献を訴えました。

重要なDRR投資の例としては、雨水管理のためのSMARTトンネルや、被災者を避難させるための避難所の増加などがあります。さらに、都市住民の保護を目的とした、洪水軽減計画や統合河川流域開発プロジェクトなどがあります。マレーシアはまた、地域社会の強靱性を高め、保険不足の問題に対処するため、災害保険制度や自然を活用した解決策（NbS）を推進しています。



「私たちは、斜面管理、ダムの安全性、早期警報システムに民間セクターが関与することを奨励しています。その結果、PLUS HighwayやTenaga Nasional Berhadのような企業が、これらの重要な分野に投資するようになりました、



気候変動の緩和と適応: 洪水と異常気象の影響

ジャカルタ特別市地域防災委員会委員長 Isnawa Adji 博士

Isnawa Adji氏は、洪水と異常気象の影響を中心に、気候変動の緩和について発表しました。洪水、都市火災、地震、異常気象を中心に、ジャカルタにおける災害の脅威について概説しました。

過去5年間に於ける災害の増加傾向について説明し、降雨強度の増加など、気候変動が深刻な洪水災害を引き起こしていることを明らかにしました。

また、260以上のさまざまな分野の組織との協力関係を強調し、地域社会の関与の重要性を強調しました。全体的な目標は、ジャカルタで強靱なインフラを構築し、災害への備えを向上させることです。



「ジャカルタは、河川の氾濫、局地的な雨、潮による洪水など、いくつかの洪水リスクのシナリオに直面しています。最悪のシナリオは、3つの洪水原因がすべて重なった場合です。」



Sukses Jakarta untuk Indonesia



STRENGTHENING DISASTER RESILIENCE IN A GLOBAL CITY

CLIMATE CHANGE MITIGATION AND ADAPTATION:
IMPACT OF FLOODS AND EXTREME WEATHER

サブテーマ 2 持続可能な都市空間計画と開発による災害への 備え

メインセッション

サブテーマ 2 | 持続可能な都市空間計画と開発による災害への備え

急速な都市化、災害、気候変動の影響などの要因により、近年、災害の頻度と激しさが増していることを受け、各都市は、持続可能な都市空間計画と開発を通じて防災を強化することが急務であると認識しつつあります。都市や街は、危機や災害が発生した場合、危険や脅威、衝撃の影響に適応し、変容し、回復できなければならないのです。

Hoferfy Zawani氏（強靱開発イニシアティブ副部長（ビジネス・渉外部））が司会を務め、Afan Adriansyah Idris氏（ジャカルタ特別市次官（開発・環境担当））が共同議長を務めた本セッションでは、強靱で持続可能な都市空間計画における革新的な戦略とベストプラクティスが探求されました。セッションの発表者は、災害リスクの軽減と長期的な持続可能性における持続可能な都市計画の役割を強調し、洞察とケーススタディを共有しました。このセッションは、災害への備えを都市計画に組み込むことについての参加者の理解を深めることを目的としました。議論は、強靱なインフラ、土地利用、ゾーニング、利害関係者の協力のための戦略に焦点を当てました。発表されたトピックには、緑地、自然を活用した解決策、緑のインフラを通じた災害リスクの軽減と気候変動への適応を取り入れることに重点を置いた、強靱なインフラのための政策、制度的枠組み、資金調達などが含まれました。最後に、参加者は、より安全で災害に強い都市を構築するための協力的な解決策を模索しました。



持続可能な都市空間計画と開発による災害への備え

ジャカルタ特別市地域開発計画委員会委員長 Atika Nur Rahmania



Atika Nur Rahmania氏のプレゼンテーションでは、グローバル都市としてのジャカルタの課題と将来の計画に焦点を当てました。政府が直面している課題として、交通渋滞や生活費の高騰、洪水、大気汚染、水質汚染、気候変動などの環境問題、不法居住、市民活動や移動パターンの非効率性などが挙げられます。

政府は、交通指向のデジタル都市、地域社会の自給自足、強靱で統合された都市空間、ケプラウアン・セリブ（Kepulauan Seribu）を含む沿岸地域の持続可能な開発、経済・文化の中心地としてのジャカルタを支える都市空間の開発に着手しています。

「ジャカルタの未来のために、私たちはインフラ整備に多額の投資を行い、ジャカルタをよりアクセスしやすく、つながりを持った都市にしていきます。また、ブルーズ・グリーン・インフラや再生可能エネルギーを導入することで、持続可能性を優先させています。さらに、よりクリーンで健康的な都市を実現するため、廃棄物処理と水管理システムを改善しています。最後に、デジタルインフラと強固な危機管理システムを通じて、より革新的なジャカルタを構築します。」

バンコク:

すべての人々にとって住みやすい都市、バンコク

バンコク都副知事 Tavida Kamolvej 准教授

タビダ・カモルヴェジ博士のプレゼンテーションは、バンコクにおける災害への備えと持続可能な都市空間計画に焦点を当てました。交通渋滞や生活費の高騰、洪水、大気汚染、水質汚染、気候変動などの環境問題、不法居住や市民活動・移動パターンの非効率性などが主なポイントです。

バンコクの長期ビジョンは、インフラ整備による連結性とアクセシビリティを優先させています。廃棄物処理や水管理システムの改善とともに、ブルーズ・グリーン・インフラや再生可能エネルギーを導入することで、より環境に優しい都市を目指します。イノベーションを促進するため、バンコクはデジタルインフラと災害リスク管理システムに投資する予定です。



「バンコクの長期的な開発戦略は、経済と文化の中心地としてのバンコクの位置づけを優先しています。この包括的な計画は、交通便利性とデジタル接続を重視し、自給自足の活気ある地域を育成する未来のバンコクを想定しています。」

マニラにおける持続可能な都市空間計画と開発による災害への備え Disaster Preparedness through Sustainable Urban Spatial Planning and Development

マニラ首都圏公共安全室第4交通規制室課長 Atty Crisanto C. Saruca Jr.



Atty Crisanto C. Saruca Jr.氏は、土地利用計画とゾーニングにおいて気候変動と災害リスクを主要課題とする方法について発表しました。サルゥカ氏は、気候変動と災害に関する情報の収集と整理、潜在的な影響の調査、エクスポージャー・データベースの開発、気候・災害リスク評価の実施、評価結果をまとめる重要性を強調しました。

プレゼンテーションでは、サンファン市におけるゾーニング条例のパブリックコメントや、パテロス市における包括的土地利用計画とゾーニング条例のワークショップなどのケーススタディやワークショップが紹介されました。ラスピニャスのゾーニング条例の例として、洪水オーバーレイゾーンやレジリエンス強化開発地域（REDA）オーバーレイゾーンが挙げられ、実践的な統合が説明されました。

「災害への備えに対する我々のコミットメントの一環として、いくつかの重要なイニシアチブを紹介いたします。効果的な洪水調節運用システム（EFCOS）プロジェクトは、パング・マリキナ・ラグーナ湖群の水位管理に重要な役割を果たしています。さらに、マニラ首都圏地震緊急時対応計画は、ウェストバレー断層沿いの潜在的な地震に対する市の備えを確実なものにしています」。

持続可能な都市空間計画と開発による災害への備え

ヤンゴン市開発委員会都市計画部副局長（都市計画部長） Tin Tin Kyi

Tin Tin Kyi氏は、ヤンゴンにおける持続可能な都市空間計画と開発を通じた災害対策に焦点を当てました。氏はヤンゴンの現状を概説し、その面積、人口、急速な都市化に焦点を当て、熱帯暴風雨、洪水、地震などの災害がもたらす課題を詳述しました。熱帯暴風雨や洪水は、頻度と強度を増しており、ヤンゴン市をますます脆弱にしています。

この計画には、より住みやすい都市を作るためのゾーニング規制や公共教育の取組が盛り込まれています。この多面的なアプローチは、ヤンゴンを強靱で持続可能な大都市に変えることを目的としています。



「ヤンゴンの開発計画はビジネス街にとどまりません。上下水道や電力といった必要不可欠なインフラを改善し、洪水対策を優先しています」

Sukses Jakarta untuk Indonesia



STRENGTHENING DISASTER RESILIENCE IN A GLOBAL CITY

CLIMATE CHANGE MITIGATION AND ADAPTATION:
IMPACT OF FLOODS AND EXTREME WEATHER

サブテーマ 3

危機管理における危機コミュニケーション戦略 と連携

メインセッション

サブテーマ 3 | 危機管理における危機コミュニケーション戦略と連携

ますます複雑化するマルチハザードの災害に直面する中で、効果的なコミュニケーションは、特に都市部や都市において、人命を守り、効率的な災害管理活動を指揮するための要として浮上しています。こうした複雑化があるため、災害に内在する無数の危険やリスクに対処する上で、全体的で明確かつ協調的なコミュニケーションが重要なのです。

その際、危機管理コミュニケーション計画が中心となり、警告、最新情報、避難手順など、さまざまなシナリオに対応する明確なプロトコルを定め、各タイプの危険に総合的に対処します。さらに、急速に発展しているテクノロジーを活用し、包括的なクライシス・コミュニケーション戦略を立案・実行し、リアルタイムでの情報共有や対応の調整などを可能にすることが不可欠です。その上で、危機管理コミュニケーションは、災害がもたらす課題に対処するために必要な資源や専門知識を共有するために、利害関係者間の協力を取り入れる必要があります。これにより危機管理コミュニケーション戦略は、より効果的に取組を調整し、災害への強靭性と対応力を高めることができるのです。

司会はUCLG-ASPAC都市行動計画地域プロジェクトマネージャーM. Helmi Abidin 氏、共同司会はジャカルタ特別市地方協力局長のMarulina Dewi氏が務め、参加者は都市部に特化したマルチハザードの検討も含め、災害管理における危機管理コミュニケーション戦略や協力体制について学び、議論しました。このセッションは、都市部における危機管理コミュニケーションと協働を成功させるために必要な多面的なアプローチに焦点を当てました。このセッションは、最終的に人命を守るために災害管理の取組を強化することを目的とし、テクノロジー、包括的な計画、組織間の連携、コミュニティの参加、継続的な強化の重要性を強調しました。



東京都の災害対策: 危機管理における危機コミュニケーション戦略と連携 東京都総務局総合防災部防災戦略課統括課長代理 荒井 一成



荒井一成氏が発表した東京都の経験に見られるように、効果的な危機管理コミュニケーションは、地域社会から家庭規模まで、住民一人ひとりの強い意識を伴う必要があり、マルチステークホルダーの積極的な参加によって支えられています。

東京都では、各家庭に防災ブックを配布し、能登半島〔地震〕の時のように、災害後に地域コミュニティが相互に協力し合う文化を醸成しています。地域では、都市から小さな村落地域までさまざまな種類の合同防災訓練が行われ、行政、自治会、民間事業者、防災機関、地域社会など、さまざまな分野の関係者が参加しています。このような取組を通じて、災害の問題に集団的に取り組むことができ、災害への対応力を高めることができます。

「東京で頻発しているような災害を克服するための対策が重要です。首都直下地震など様々な災害への備えを万全にするため、都内全世帯に防災ブックを配布したほか、火災の発生防止に有効な感震ブレーカーを無料で配布しています。」



大規模災害時における区市町村との連携について 東京消防庁防災部長 古賀 崇司

「災害への対処方法を改善するためには、私たちが構築するものにテクノロジーを取り入れることが重要です。災害時に早期災害情報システムを使って、参集中の職員全員がスマートフォンを使い、目にした被害状況をすぐに登録することができます。その迅速な対応によって提供される情報量を想像してみてください。」

同じく東京都のパネリストである古賀崇司氏は、早期災害情報システムによる被害状況の把握や、延焼シミュレーションシステムによる火災発生状況の把握などを例に挙げ、防災におけるテクノロジー活用の必要性を強調しました。

さらに、延焼シミュレーションシステムは、街区の状況や気象条件から火災の拡大や被災地域を予測することができることを示唆しました。また、消防職員がまだ対応できていない火災の進展を予測することもできます。

韓国の災害対応システム

ソウル消防災難本部災難対策課消防吏員 Kwon Seokyong



Kwon Seokyong氏は、効果的な災害通信システムを通じて災害に対応する上で、さまざまな関係機関が強力に連携することの重要性を強調しました。市政府は、災害対策チームを統制し、指揮する上で重要な役割を果たしています。特に、気候変動に伴う大規模災害の増加により、各地域で質・量ともに充実した危機管理体制が必要となっています。

「ソウルでは近年、大雨や異常気象などの大きな災害が増えています。このような状況の中で、私たちは質的にも量的にもより良い危機管理システムを必要としています。特に、様々な関連機関の上部組織として機能する、災害対応に関連する制度・機関にはより良いシステムが必要です。」

新北市の分かりやすい災害情報

新北消防局副局长 Chen Tsung-Yueh

新北消防局副局长のChen Tsung-Yueh氏は、新北市が開発した減災システムを紹介しました。このシステムは「Easy to Know Disaster Information」（分かりやすい災害情報）と呼ばれ、市民の安全と備えを強化するために作られた総合的な災害情報システムです。この革新的なプラットフォームは、危機的な状況下で住民にリアルタイムの情報とリソースを提供します。

住民は、リアルタイムの気象情報や災害警報にアクセスしたり、自治体機関が対応可能な災害関連情報をアップロードしたり、写真や詳細な施設情報とともに避難所を検索したりすることができます。これにより、市民は災害発生時に十分な情報を得た上で判断し、必要な予防措置を講じることができます。



「私たちは、アクセシビリティを念頭に置いてこの取組を設計しています。あらゆるデバイスで利用できるようにし、すべての人にシームレスな情報配信を保障します」

シンガポールの危機管理における危機コミュニケーション戦略と連携

シンガポール民間防衛局第3地区長 Wilfred Lim



「シンガポールは、イノベーションと協力を通じて人命救助活動で世界をリードすることを目指し、消防、救助活動、医療支援、災害緩和システムに関する様々な側面を含む緊急対応サービスを提供しています。」

シンガポールのWilfred Lim代表は、危機管理とコミュニケーションに対する同国の先進的で近代的なアプローチを紹介しました。プレゼンテーションでは、シンガポールのユニークな構造とその包括的な災害への備えの計画が明らかにされました。シンガポールは強固な国家危機管理システムを確立しており、緊急時にはさまざまな政府機関が連携して対応できるようになっています。これには、ホームフロント危機管理システム（HCMS）の開発が含まれ、さまざまな危機管理グループ（CMG）がそれぞれの領域における危機への備えと対応を監督しています。例えば、保健省は健康関連の危機を担当しています。さらに、シンガポールはソーシャルメディア・チャンネルを活用し、現在および差し迫った災害状況に関する情報を発信することで、市民の備えのレベルを高めています。このシステムは、新型コロナウイルス感染症のパンデミック時に有効であることが証明され、大規模なイベントの管理における有効性が実証されました。

北ミナハサの危機管理における危機コミュニケーション戦略と連携 （インドネシア北ミナハサ州）（特別フィードバック）

北ミナハサ県知事 Joune J. E. Ganda

各都市からのプレゼンテーション・セッションの最後には、北ミナハサ県の知事である Joune J. E. Ganda 氏がフィードバックを行い、北ミナハサにおける危機管理のための危機コミュニケーション戦略と連携の実践経験を共有しました。

近年、北ミナハサは多くの危機コミュニケーション戦略を取り入れています。これには、地元のコミュニティ・リーダーとの緊密な連携や、Facebook、WhatsApp、Instagramといった複数のオンライン・コミュニケーション・プラットフォームを活用した、コミュニティへのタイムリーな情報発信などが含まれます。



「北ミナハサには、差し迫った脅威、避難経路、安全手順に関するタイムリーで正確な情報を一般市民に発信する仕組みがあります。これは、オンラインメディア、テレビ、ソーシャルメディア、地域コミュニティネットワークなど、さまざまなチャンネルを活用することによって行うことができます。」

クロージングセッション

年次報告と次回開催都市の発表

東京都政策企画局外務部事業課課長代理 板垣 真理



板垣真理氏が事務局を代表して、危機管理ネットワークの年次報告書を発表しました。報告書では、ネットワークの3つの柱である人材育成、知識の共有、情報交換について説明し、各プロジェクトの年間成果を報告しました。最後に、CMC2025の開催都市としてバンコクが発表され、報告書は締めくくられました。

2025年CMC開催都市への引き継ぎ式

古賀崇司、Sigit Wijatmoko、および Tavidia Kamolvej 准教授

危機管理ネットワークを代表し、東京消防庁の古賀崇司防災部長がCMC開催都市のハンドオーバーを行いました。CMC2024の開催都市ジャカルタからは、Sigit Wijatmokoジャカルタ特別市行政次官が代表を務め、CMC2025の開催都市バンコクからは、Tavidia Kamolvejバンコク都副知事が代表を務めました。



「ほんの少し距離を置いて見るのが重要です。より良い安全性と危機管理能力を確保するために、都市レベルの計画に災害リスク緩和を組み込む必要があります。政策と戦略は、より安全で迅速な都市づくりの鍵です。来年バンコクで、今回参加されている皆様にお会いできることを楽しみにしていますし、私たちの都市が提供できるものをお見せできることをとても楽しみにしています。」

クロージングセッション

危機管理会議 2024 総括声明

ジャカルタ特別市行政次官 Sigit Wijatmoko様



危機管理会議の第3セッション終了に際して、ジャカルタ特別市行政次官Sigit Wijatmoko氏は、参加者、オブザーバー、一般聴衆の献身的な参加に最大限の感謝を表明しました。「私たちは、気候変動の緩和と災害リスクの軽減に不可欠な新たなイノベーションを探求しました。おそらく最も重要なことは、この会議が終了した後も、引き続き私たちにとって有益となる関係を築いていくことです」と述べました。



第2日 視察

2024年5月30日（木）

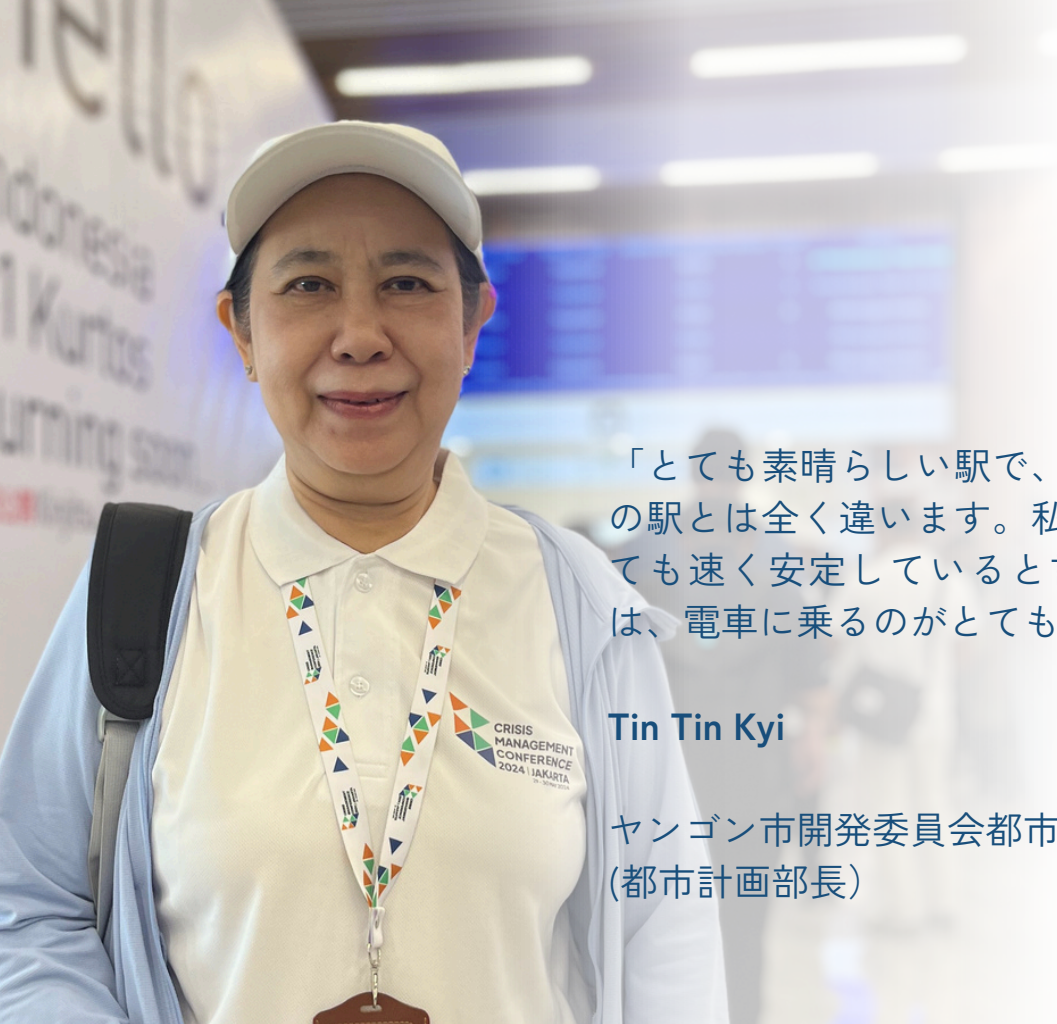


フーシュ高速鉄道 ハリム駅 - パダラン駅

ジャカルタとバンドンを結ぶフーシュ高速鉄道は、インドネシア初の高速鉄道です。このプロジェクトは中国の「一帯一路」構想の一環で、2023年10月17日について運行を開始しました。この鉄道路線は142kmに及び、2都市間の所要時間を約46分に短縮します。現在、ジャカルタのハリム駅、バンドンのパダラン駅、テガルアル駅の3駅に停車します。2024年初頭の時点で、フーシュは1日48便を運行し、1日平均14,000~16,000人の乗客に利用されています。

危機管理会議2024では、参加者をフーシュ鉄道に招待し、ジャカルタのハリムからバンドンのパダランまでの高速列車の乗車を体験してもらいました。このツアーは、施設やインフラを紹介し、その運営を直接体験してもらい、移動中に起こりうる危機に対処するための包括的な安全手順を示すことを目的としました。この取組により、フーシュ高速鉄道サービスの効率性と安全性が強調され、インドネシアの交通インフラの近代化におけるフーシュ高速鉄道の役割が明らかにされました。





「とても素晴らしい駅で、清潔です。ジャカルタの他の駅とは全く違います。私の情報提供者も、列車はとても速く安定していると言っていました。そして私は、電車に乗るのがとても楽しみです。」

Tin Tin Kyi

ヤンゴン市開発委員会都市計画部副局長
(都市計画部長)



「日本の高速鉄道である新幹線と比較すると、フーシュ高速鉄道は新幹線と同じくらい速いと感じました。また、とても静かで安定しており、走行中の振動をほとんど感じませんでした。そして、駅も電車もきれいです。」

板垣 真理

東京都政策企画局外務部事業課課長代理



メイソンパインホテル 西ジャワ州パダラン

ジャカルタのハリムからバンドンのパダランまで高速列車フッシュに乗った後、危機管理会議2024の参加者をメイソンパインホテルで歓迎する昼食会が開かれました。西ジャワ州長官府政府・地域自治局長のYulia Dewita氏と西ジャワ州防災委員会（BPBD）事務局長代行のAnne Hermadianne Adnan氏が参加者を出迎えました。

Yulia Dewita氏は歓迎の挨拶の中で、危機管理とリスク軽減のための協力的なアプローチを促進する上で、この会議が重要であることを強調しました。続いて、Anne Hermadianne Adnan氏が危機リスク管理について詳細な議論を行い、災害が起こりやすい地域の人口密度がもたらす課題を強調しました。

このセッションでは、都市化と人口増加の複雑さに対処するため、早期警報システムと効果的なリスク管理戦略を統合することの重要性が強調されました。西ジャワ州政府は、危機リスク管理における経験と戦略を共有し、参加者に貴重な洞察を提供しました。会議に文化的な要素を加えるものとして、参加者はユネスコの遺産に登録されているインドネシアの伝統楽器、アングルンの演奏に招待されました。このインタラクティブな活動の後、生演奏付きの豊かな昼食では、仲間意識が育まれ、文化が称えられました。実践的な洞察と文化的な交流を組み合わせた昼食会は、参加者全員にとって有益で充実した体験となりました。



クイックシルバー バタビア・マリーナ スンダ・クラバ港

会議の現地視察の2番目の目的地は、ジャカルタの海岸線から北へ約15kmに位置する島の保護区、ビダダリ島で、そこでアクティビティが行われました。参加者はスンダ・クラバ港のバタビア・マリーナから、専用の双胴船タイプのクイックシルバー・クルーズに乗船し、セリブ諸島の美しい島々を移動しました。クルーズ中、参加者全員は予測できる緊急事態を軽減するための包括的な安全ブリーフィングを受けました。

「広大な海のただなかにおいては、津波などの危険に常に警戒していなければなりません。従って、それらに対処する方法を理解することが極めて重要です」

Atty Crisanto C. Saruca Jr.

マニラ首都圏公共安全室第4交通規制室課長





水難救助シミュレーション ジャカルタ、サウザンド・アイランド ビダダリ島

現在は自然を楽しむ観光地であるビダダリ島は、以前はプマード島と呼ばれ、感染症を隔離する役割を担っていたことから「病気の島」とも呼ばれていました。参加者は、ジャカルタ政府の消防救助局によるシミュレーションを見学しました。このデモンストレーションでは、ジャカルタの消防・救助隊員のスキルや、海上での火災救助で使用する機材や手順が紹介されました。





マングローブの植林 ジャカルタ、ケプラウアン・セリブ ビダダリ島

この日は、指定された海岸沿いでマングローブの植林活動が行われました。即効性はないかもしれませんが、この活動は悪化する気候変動の影響を緩和する計り知れない可能性を秘めており、また共通の目標達成に向けた協力の象徴にもなりました。

「（気候変動の影響を受ける）このような世界では、ひとりの努力ではほとんど変化をもたらすことはできません。だからこそ、乗り越えるために共に取り組むことが必要なのです。この会議は具体的なデモンストレーションであり、今後も継続していく必要があります。」

Benjamin Creutzfeldt

ベルリン上院議員





危機管理会議2024へのご支援に
感謝申し上げます

Annex 1. Conference Schedule

Date	Time	Dress Code	Agenda
Tuesday, 28 May 2024	00.00 - 24.00	Casual	ARRIVAL
	18.00 - 21.00	Smart Casual	Dinner provided for the participants staying at The Langham. You can come at any time from 18.00 to 21.00. Please mention that you are participants of the CMC 2024. Alice French Bistro Langham
Wednesday, 29 May 2024	08.00 - 09.00 (60')	Business Suit	Registration
	09.00 - 09.30 (30')	Business Suit	Opening - Cultural Performance (5') - Remarks by Mr Heru Budi Hartono, the Acting Governor of Jakarta (7') - Remarks by Mr. Suhajar Diantoro, Senior Advisor to the Minister of Home Affairs of Indonesia (8') - Symbolic Opening by striking the Rebana Betawi Hadroh (5') - Group photo (5') Langham Ballroom, 3rd Floor
	09.30 - 10.30 (60')	Business Suit	Plenary Discussion <i>Strengthening Disaster Resilience in a Global City</i> Panel Discussion (40') Opening by the Host and Moderator (5') - Ms. Milag SAN JOSE-BALLESTEROS - C40 Cities (7') - Mr. Heru Budi Hartono, Acting Governor of Jakarta (7') - Assoc. Prof. Dr. Tavida KAMOLVEJ, Deputy Governor of Bangkok (7') - Dr. Raditya Jati, Deputy for Systems and Strategies, National Agency for Disaster Countermeasures (BNPB) / Representative of BNPB (7') - Ms Anne Hermadianne Adnan. Acting Executive Head of the Provincial Disaster Management Board of West Java (7') Q&A and Discussion (20') Langham Ballroom, 3rd Floor

Date	Time	Dress Code	Agenda
	10.30 - 10.45 (15')	Business Suit	Coffee Break at the Ballroom Foyer, 3rd Fl.
	10.45 - 12.10 (85')	Business Suit	Main Session 1 Climate Change Mitigation and Adaptation: Impact of Floods and Extreme Weather Presentation (55') - Opening by the Host dan Session Co-Chair (5') - Tokyo (12'), Mr. HIJIKATA Takashi, Director for Planning for Small Rivers, Planning Section, River Division, Bureau of Construction, Tokyo Metropolitan Government - Taipei (12'), Mr. HUANG Chien-Hua, Senior Specialist, Taipei City Fire Department - Malaysia Civil Defense Force, (12'), Lt. Kol. (PA) Mohd Izaimi bin Md Daud, State Director, Malaysia Civil Defence Force (MCDF) - Jakarta (12'), Mr. Isnawa Adji, Head of the Provincial Board for Disaster Mitigation, Jakarta Government - Closing by Host (2') Q&A and Discussion (30') Moderator : Ms. Milag SAN-JOSE BALLESTEROS, Regional Director for East, Southeast Asia, and Oceania / Global South Diversity Lead Regions and Mayoral Engagement, C40 Cities <i>Delegates of Member Cities, Observer Cities, and other Participants are encouraged to provide questions, feedback, and insights.</i> Langham Ballroom, 3rd Floor
	12.10 - 13.45 (95')	Business Suit	Lunch at Belgravia Room, 2nd Floor for Participants from Member Cities, Observer Cities, Plenary Speakers, Session Co-Chairs and Moderators; and at the Pre-Function Room for other Participants.

Date	Time	Dress Code	Agenda
	13.45 - 15.10 (85')	Business Suit	Main Session 2 Disaster Preparedness through Sustainable Urban Spatial Planning and Development Presentation (55'): - Opening by the Host dan Session Co-Chair (5') - Jakarta (12'), Head of the Provincial Board for Planning and Development, Jakarta Government / Representative - Bangkok (12'), Dr. Tavid KAMOLVEJ, Deputy Governor of Bangkok - Manila (12'), Mr. Atty Crisanto C. SARUCA Jr., Director IV Traffic Discipline Office, Officer-in-Charge, Metropolitan Public Safety Office, Metropolitan Manila Development Authority - Yangon (12'), Mrs. Tin Tin Kyi, Deputy Director General (Head of Urban Planning Department), Yangon City Development Committee - Closing by Host (2') Q&A and Discussion (30') Moderator : Mr. Hoferdy Zawani, Deputy Director (Business & External Affairs) Resilience Development Initiative <i>Delegates of Member Cities, Observer Cities, and other Participants are encouraged to provide questions, feedback, and insights.</i> Langham Ballroom, 3rd Floor
	15.10 - 15.25 (15')	Business Suit	Coffee Break di Ballroom Foyer, 3rd Floor

Date	Time	Dress Code	Agenda
	15.25 - 17.00 (95')	Business Suit	Main Session 3 Crisis Communication Strategies and Collaboration in Disaster Management Presentation (57'): - Opening by the Host dan Session Co-Chair (5') - Seoul (10'), Mr. KWON Seokyong, Fire Captain (Response Strategy) Disaster Response Division Seoul Metropolitan Fire & Disaster Headquarters - Tokyo (10'), Mr. ARAI Kazunari, Deputy Director, Strategy Section, Crisis Management Division, Bureau of General Affairs, Tokyo Metropolitan Government - Tokyo (10'), Mr. KOGA Takashi, Chief, Disaster Preparedness Division / Deputy Chief, Tokyo Fire Department - New Taipei (10'), Mr. CHEN Tsung-Yueh, Deputy Commissioner, Fire Department. - Singapore (10'), LTC. Wilfred LIM, Head Operations, 3rd SCDF Division - Closing by Host (2') Q&A and Discussion (38') Moderator : Mr. M. Helmi Abidin, Regional Project Manager – Urban Act Project, UCLG-ASPAC Special Feedback : Mr. Joune Ganda, Regent of North Minahasa (10') <i>Delegates of Member Cities, Observer Cities, and other Participants are encouraged to provide questions, feedback, and insights.</i> Langham Ballroom, 3rd Floor

Date	Time	Dress Code	Agenda
	17.00 - 17.35 (35')	Business Suit	Summary and Closing - Annual report and Announcement of the Host of CMC 2025 by Ms. ITAGAKI Mari, the representative for <i>the Secretariat for Network for Crisis Management</i> (10') - Handover and Remarks of the Host of CMC 2025 (8') - Closing, Undersecretary for Governance, Jakarta Government (5') - Group photo (5') Langham Ballroom, 3rd Floor
	17.35 - 19.00 (85')	-	Preparation for Formal Dinner
	19.00 - 21.00 (120')	Batik/ Business Casual	Formal Dinner Langham Ballroom, 3rd Floor
Thursday, 30 May 2024	07.30 - 18.00	Polo T-Shirt (Provided by the Organizers)	Field visit to West Java and Bidadari Island.
	18.00-19.00	Polo T-Shirt / Business Casual	Farewell Dinner
Friday, 31 May 2024	00.00 - 24.00	Smart Casual	DEPARTURE

Annex 2. List of Participants, Speakers, Moderators, and Co-Chairs

Speakers/Participants from Member Cities				
No	City	Prefix	Name	Position
1	Bangkok	Assoc. Ptof. Dr.	Tavida KAMOLVEJ	Deputy Governor of Bangkok
2	Bangkok	Mr.	Phairote JANJUEA	Director of the Disaster Prevention Plan and Measures Division
3	Bangkok	Mr.	Prakob PHOKAI	Director of Firefighting and Rescue Operations, Division 5
4	Bangkok	Ms.	Wantana TECHASUWANNA	Foreign Relations Officer
5	Kuala Lumpur/ Malaysia Civil Defense Forces	Mr.	Lt. Kol. (PA) Mohd Izaimi bin Md Daud	State Director, Malaysia Civil Defence Force (MCDF)
6	Kuala Lumpur/ Malaysia Civil Defense Forces	Mr.	Lt. Kol. (PA) Nurrul Azle bin Ab Jabar	Assistant Director, Malaysia Civil Defence Force (MCDF)
7	Manila	Mr.	Atty Crisanto C. SARUCA Jr.	Director IV Traffic Discipline Office, Officer-in-Charge, Metropolitan Public Safety Office
8	Manila	Mr.	Luther B. CASTUERA	Special Operations Officer II, Head of the Rescue Battalion Headquarters and Disaster Preparedness Training Center
9	New Taipei	Mr.	CHEN Tsung-Yueh	Deputy Commissioner, Fire Department
10	New Taipei	Mr.	TANG Hao-Ting	Officer, Fire Department
11	Seoul	Mr.	HYUN Jinspo	Deputy Fire Marshal Director of Disaster Response Division Seoul Metropolitan Fire & Disaster Headquarters
12	Seoul	Mr.	KWON Seokyong	Fire Captain (Response Strategy) Disaster Response Division Seoul Metropolitan Fire & Disaster Headquarters
13	Singapore	Mr.	Wilfred LIM	Head Operations 3rd SCDF Division Singapore Civil Defence Force
14	Singapore	Mr.	Muhammad Faruq Bin Mohamed Fadilah	SO Operations Development Operations Department Singapore Civil Defence Force

Speakers/Participants from Member Cities

No	City	Prefix	Name	Position
15	Taipei	Mr.	HUANG Chien-Hua	Senior Specialist, Taipei City Fire Department
16	Taipei	Mr.	LAI Yifu	Battalion Chief, Taipei City Fire Department
17	Tokyo	Mr.	KOGA Takashi	Chief, Disaster Preparedness Division / Deputy Chief, Tokyo Fire Department
18	Tokyo	Mr.	SAEKI Kenichi	Junior Civilian, Vulnerable Resident Support Branch, Life Safety Education Section, Disaster Preparedness Division, Tokyo Fire Department
19	Tokyo	Mr.	KOYAMA Shin	Police Superintendent, Disaster Preparedness Division, Tokyo Metropolitan Police Department
20	Tokyo	Mr.	SASAKI Shun	Assistant Inspector, Disaster Preparedness Division, Tokyo Metropolitan Police Department
21	Tokyo	Mr.	HIJIKATA Takashi	Director for Planning for Small Rivers, Planning Section, River Division, Bureau of Construction, Tokyo Metropolitan Government
22	Tokyo	Mr.	SUZUKI Takayoshi	Deputy Director, Planning Section, River Division, Bureau of Construction, Tokyo Metropolitan Government
23	Tokyo	Mr.	ARAI Kazunari	Deputy Director, Strategy Section, Crisis Management Division, Bureau of General Affairs, Tokyo Metropolitan Government
24	Tokyo	Ms.	ITAGAKI Mari	Deputy Director, Project Section, International Affairs Division, Office of the Governor for Policy Planning Tokyo Metropolitan Government
25	Tokyo	Ms.	SHIGENO Nina	Senior Staff Member, Project Section, International Affairs Division, Office of the Governor for Policy Planning Tokyo Metropolitan Government
26	Yangon	Mrs.	Tin Tin Kyi	Deputy Director General (Head of Urban Planning Department) Urban Planning Department Yangon City Development Committee
27	Yangon	Mr.	Tin Tun Oo	Deputy Director, Engineering Department (Drainage Management), Yangon City Development Committee

Observers from International Cities 				
No	City	Prefix	Name	Position
1.	Berlin	Mr.	Benjamin CREUTZFELDT	Berlin Senate
2.	Berlin	Ms.	Friederike VON HOLTUM	Berlin Senate

Observers from Indonesia				
No	City/Province	Prefix	Name	Position
1.	Province of West Java	Mr.	Bey Machmudin	Acting Governor of West Java
2.	Province of Bali	Mr.	I Made Sudarsana	Gubernatorial Advisor on Human Development and Culture
3.	Regency of North Minahasa	Mr.	Theodore V. Lumingkewas	Executive Head, Provincial Disaster Management Board, Regency of North Minahasa
4.	Tangerang City	Mr.	Maryono Hasan	Executive Head, Provincial Disaster Management Board, Tangerang City
5.	Regency of Sigi	Mr	Henri Kusuma Rumbe	Executive Head, Provincial Disaster Management Board, Regency of Sigi

Keynote Speakers/Plenary Speakers/Feedback/Moderators/Co-Chairs				
No	City/Organization	Prefix	Name	Position
1.	Jakarta	Mr.	Heru Budi Hartono	Acting Governor of Jakarta
2.	National Agency for Disaster Counter- measures	Dr.	Raditya Jati	Deputy for Systems and Strategy, National Agency for Disaster Countermeasures
3.	Ministry of Home Affairs, Indonesia	Mr.	Suhajar Diantoro	Senior Advisor to the Minister of Home Affairs
4.	Jakarta	Ms.	Sri Haryati	Undersecretary for Economy and Finance
5.	Jakarta	Mr.	Afan Adriansyah Idris	Undersecretary for Development and Environment

Keynote Speakers/Plenary Speakers/Feedback/Moderators/Co-Chairs				
No	City/Organization	Prefix	Name	Position
6.	Jakarta	Mr.	Sigit Wijatmoko	Undersecretary for Governance
7.	Jakarta	Ms.	Marulina Dewi	Head of the Bureau for Cooperation Affairs
8.	Regency of North Minahasa	Mr.	Joune Ganda	Regent of North Minahasa
9.	Province of West Java	Ms.	Anne Hermadianne Adnan	Acting Executive Head, Provincial Disaster Management Board, West Java
10.	C40 Cities	Ms.	Milag SAN JOSE-BALLESTEROS	Regional Director for East, Southeast Asia, and Oceania / Global South Diversity Lead Regions and Mayoral Engagement, C40 Cities
11.	UCLG-ASPAC	Mr.	M. Helmi Abidin	Regional Project Manager – Urban Act Project, UCLG-ASPAC
12.	Resilience Development Initiative	Mr.	Hoferdy Zawani	Deputy Director (Business & External Affairs), Resilience Development Initiative

Summary		
No	Indicator	Number
1.	Participants from Member Cities (Excluding Host City Participants)	27
2.	Number of Participating Member Cities (Excluding Host City)	9
3.	Participants from International Observer Cities	2
4.	Number of International Observer Cities	1
5.	Participants from Observer Cities from Indonesia	5
6.	Number of Observer Cities from Indonesia	5
7.	Number of Keynote Speakers/Plenary Speakers/Feedback/Moderators/Co-Chairs	12
8.	Invitees from Ministries/Institutions/International Organizations	100
Total Number of Participants		161



**CRISIS
MANAGEMENT
CONFERENCE
2024 | JAKARTA**

29 - 30 MAY 2024